

福島県飯館村の“復興の桜” 本巢市の淡墨桜 50 本が仲間入り

平成 28 年 4 月 20・21 日

復興のシンボルとしての桜の園づくりに 少しでも支援を！

先日の九州の熊本県を中心とする大地震で被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。テレビや新聞の報道を見て、たとえ軽トラック一車分の救援物資でも一刻も早く現地に届けたい気持ちでいっぱいですが、それは非常に難しいことです。「ボランティアは危険な作業に携わらない！」阪神淡路大震災時のボランティアで学んだこと。震度 5～6 の余震が続くところに、自分だけならまだしも仲間を導くことは到底できません。自分にできることをするしかありません。ということで、これまでかかわってきた東日本から、桜の苗木の要請が届きました。昨年秋の絆コンサートの立役者小貫さんの知人の知人を介した飯館村の会田征男さんからです。「絆コンサート」の実行委員会代表であり、「もとす つなぐ会」のメンバーで、「淡墨桜を守り広げる会」の一員でもある青木さんと共に、淡墨桜の苗木を持っていくことになりました。



「青木さんの愛車に 50 本の苗木を積み込み、本巢市を午前 3 時にスタート。晴天で朝焼けの富士山が迎えてくれました。」



「途中ほとんど止まらず、目的地近くの川俣町に 10:20 に到着。800km 余りの行程を青木さん一人で走りぬきました。恐るべし！」



「左が、相馬郡飯館村伊丹沢の会田さんの“復興の桜”。一面桜の木で花吹雪が舞っていました。」

“復興の桜” とは？ (過去の新聞報道から)

今を生きる 復興願い桜の石碑 2000本見ごろ 村民の目印に
亡き長男の名刻む (2012.5.4 福島民報)

飯館村伊丹沢の農業 会田征男さん 66歳

東京電力福島第一原発事故で全村が計画的避難区域に指定された飯館村伊丹沢の農業会田征男さん(66)が自宅の敷地に植えた2000本の桜が3日、見頃を迎えた。会田さんは3月、桜を見渡す敷地の一角に「復興の桜 村民の絆づくり」と刻んだ高さ3メートルほどの石碑を建立した。「避難でばらばらになった村民が、いつの日か戻る時の目印になれば」

養蚕を営んでいた会田さんは平成10年、たくさん桜が村おこしにつながればと、桑畑だった約2ヘクタールの敷地に桜の苗木をまず、100本植えた。毎年数を増やし、14年には7ヘクタールの敷地にソメイヨシノとオオヤマザクラ2000本が並んだ。「3000本まで増やし、東北一の桜の名所にしよう」と春が来るたびに山里に映える桜の姿に胸を躍らせていた。

東日本大震災と原発事故で村の生活は一変した。JAそうま営農経済担当常務理事を務める会田さんは、相馬市の借り上げ住宅に避難し、管内で被災した農家の支援に追われた。忙しい中、毎週のように自宅に戻り、桜の手入れに汗を流した。昨夏、妻のツタ枝さん(65)と話し合い「避難を続ける村民が集う場になれば」と桜の近くに石碑を建てることを決めた。小山を覆うような満開の桜に、一時帰宅で訪れた村民は足を止め、村内をパトロールする見守り隊の隊員が目細める。石碑には17年に交通事故で亡くなった会田さんの長男正善さん=当時(37)=の名前が刻まれている。「いつからか桜の世話が息子の供養につながる気がしている。私が死んでも桜は50年、100年と咲き続ける。孫や村民が桜を見て、少しでも穏やかな気持ちになってくれれば」。会田さんは山里に淡く広がる桜を見上げた。

「植え続けてよかった！」 夫婦で守り続ける復興の桜



約束どおり、12時少し前に会田邸に到着。NHK 福島テレビのカメラが待ち受けていました。早速、予定の場所に会田夫婦と青木さんとで植樹。根尾の「淡墨桜を守り広げる会」の川口さんが書いた記念樹標柱を立て、本巢市の藤原勉市長からいただいたメッセージを読み上げました。会田さんは、「これまで多くの苗木を植えていただいたが、標柱にメッセージまで持参されたのは初めてのこと！」と驚き喜ばれました。そして、こう続けられました。「新築記念に始めた植樹だが、震災後の10月から“復興の桜”としてさらに力を入れてきた。飯館村の人々が、桜の下カラオケで歌い舞い踊る場にしかたかった。」最後に、「桜を植えてきてよかった！」「飯館村の人だけでなく、全国の人が毎年観に来ていただける。本当によかった。」と繰り返されました。

淡墨桜が最低8年間は花を付けないことを説明すると、会田さんが「私がせいっぱい世話をします。木が欲しがる肥料もやります。もし早く花が咲いたらいいですね。」「木は養生してから秋に大切に植えます。一本も枯らしたくありません。」ときっぱり。来年以後の再訪を誓いながら、会田邸を後にしました。



「植樹後、富岡町の元図書館長の小貫さんのお世話で、佐藤紫華子さんのところにお邪魔して抹茶をいただきました。佐藤さんは88歳（米寿）ですが、まだまだ現役。お茶・お花・日本舞踊を教えてみえるだけでもすごいことですが、著作でも次の本がもうすぐ刷り上ってくるとのこと。

小貫さんとお会いするのは、“絆コンサート”以来ですが旧知の友のように親しく語り合うことができました。富岡町のご自宅にも寄せていただきました。放射能汚染による全町避難指示が出て以降、そのままの状態の混乱した家の中が印象的でした。「避難解除といわれても、誰も町には帰ってこない・・・」人どころか、犬や猫一匹見られませんでした。



お詫び

本会では、釜石の予定に合わせて、5月の連休あけの植樹を計画してきました。しかし、6mのかさ上げ工事は未完了で、植樹期日の4月中旬時点でも不明でした。そこで、預らせていただいている苗木が大きくなりすぎて管理が難しくなっていることもあり、今回の福島県への植樹に一部使わせていただきました。会の趣旨から言っても、東日本の被災地への植樹ならばきっと快諾していただけると考えてのことです。ご不明な点は、右の事務局にご連絡ください。淡墨桜の苗木を釜石に送るプロジェクト会議事務局 本巢市根尾公民館内(三本木) 0581-38-2515